大祭②

今月も引き続き、「大祭」について学びましょう。

春秋二季に行われる大祭は、私たちを日々生かしてくださるすべてのお蔭さまに、心からの感謝を捧げる「感謝の祭典」です。ですから、大祭当日、生命の大元である御霊地の太神様をお参りする際には、今日まで無事に過ごさせていただいた「ご報告」と「御礼」、次の大祭までの「お誓い」を申し上げます。

もう一つ、金剛さまが「大祭」に込められた大切な勉強があります。金剛さまは大祭のご口演で、次のようなお言葉をたびたびおっしゃいました。

「私は本日お集まりの皆さんに『来てくれてありがとう』とお礼は申しません。それは皆さん一人ひとりが『主催者』となって行う大祭だからです」

つまり、大祭に参加する私たちは「お客様」ではなく、全員が大祭を支える「主催者」であり、大祭は「私たちの大祭」なのです。

では、「主催者として大祭に参加する」とは、具体的にどうすれば良いのでしょう。分かりやすい例が、首都圏の青年部奉仕です。

早朝から会場設営などの準備に始まり、会場内でのパンフレット配布やゴミの回収、駐車場の誘導などにあたり、行事後も残って後片づけを行います。他にも、式典に演奏で花を添える鼓笛隊や献華・献茶など、青年部奉仕は大祭を支える大きな存在です。

しかし、奉仕者だけが大祭の「主催者」ではありません。

例えば、支部や教区でまとまって参加した際、年配の方を気遣ったり、進んで荷物を運んだりすることも、大祭を支える行動です。また、行事後にはゴミを分別して捨てる、使ったゴザを所定の場所に返すなどといった、ささいな行動の一つひとつが、「私たちの大祭」をつくり上げているのです。現に金剛さまは、大祭で会員たちがゴミの始末や後片づけを協力して行えたことを大変お喜びになったそうです。

「主催者」であると自覚し行動することは、いつでも「自分にできること」を考え、進んで行動する力を養います。次回の大祭からぜひ、意識して参加してみましょう。

◎自分は大祭の「主催者」としてどんなことを行うのか、みんなで話し合ってみよう。